



八中だより



第4号
令和5年5月16日
府中市立
府中第八中学校



〈在籍生徒数〉 一学年247名、二学年264名、三学年242名
全校生徒数753名
〈学校住所・電話番号〉
〒182-0035 府中市四谷一丁目二八二七
電話 ○四二(三六四)一八八一
★体育祭に向けて、準備や練習が進んでいます！

『ふるさと府中』をもっと知ろう！

～令和六年四月一日に迎える市制施行七十周年に向けて～

校長 高汐 康浩

今年には四年ぶりに『くらやみ祭』が盛大に行われました。およそ八万人の人の出があったそうです。私も久しぶりに囃子(はやし)の競演や神輿(みこし)、太鼓(たいこ)の饗宴(きょうえん)、山車(だし)行列などを楽しむことができました。五月五日のクライマックス「神輿渡御(ときぎよ)」では、担ぎ手たちが「ほいさ、ほいっさ」と掛け声を掛け合いながら、頭に烏帽子(えぼし)をかぶり、白丁(はくちょう)を着て盛り上がりました。神輿の前には「太鼓送り込み」があります。大きな太鼓を野球のバットのような長いバチで叩いたその音は迫力満点です。

さて、来年四月に市制七十周年を迎えるにあたって、何回かに分けて「ふるさと府中」をテーマにした記事を掲載していきます。今回は『七十年前の府中』について触れたいと思います。

昭和二十九年の三月三十一日以前は府中市のあたりは、北多摩郡といわれる行政区画でした。現在、東京都にある郡は西多摩郡だけであることは知っている人もいるのではないのでしょうか。その年の四月一日からは、北多摩郡の西府村、府中町、多磨村が合併して新たな市である府中市ができました。これが市制施行です。下段に、市制施行当時の地形図を掲載しましたので、見てみてください。府中八中の周りは田畑が広がっていたことが分かります。当時の府中市の人口は約五万人でした。現在の府中市の人口は二十五万人を超えています。



※三之宮は京所(ききょうす)……今の宮町二丁目、三丁目あたりの昔の地名)を指しています。

【市制施行の頃の府中市西部の地形図】

《地形図を見ながらやってみましょう》

- 1 府中八中の位置に★印を付けましょう。
- 2 中央高速道路を書き入れてみましょう。
- 3 自宅付近の当時のようすを読み取りましょう。

(この地図は、時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」((C)谷 謙二)により作成したものです。)



お知がせ

活躍する八中生

【敬称略】

★卓球部★

東京都多摩地区第九ブロック卓球選手権大会

【男子団体】

第三位 小川 惺樹 浅倉 陽和太 牛久保 翔真 和田 塔矢

今野 侑 櫻井 陽人 柗木 野隼人

第六位 佐藤 大介 豊田 陽太 松平 昌大 石川 蓮真

岡部 翔之介 畠山 絢

【女子団体】

準優勝 奥 絢花 猪飼 菜月美 松尾 葉里 荒川 結加

山下 和夏 大島 和

第六位 谷 そら 加藤 光 吉田 ひかり 飯田 果凛

西野 実紗希 小山 花帆

【男子ダブルス】

優勝 小川 惺樹 浅倉 陽和太

第五位 牛久保 翔真 和田 塔矢

第五位 佐藤 大介 柗木 野隼人

【女子ダブルス】

第五位 山下 和夏 荒川 結加

第五位 奥 絢花 大島 和

【男子シングルス】

第三位 浅倉 陽和太

第五位 小川 惺樹

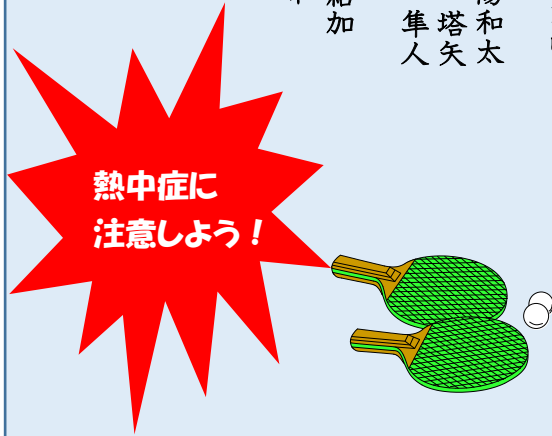
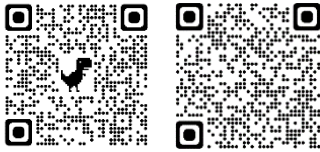
【女子シングルス】

第三位 猪飼 菜月美

第三位 荒川 結加

第五位 松尾 葉里

思春期は、心身ともに大きく成長する時期だからこそ、悩みをもつことがあります。悩みを抱えてしまつて困っているときに、相談できる相談窓口はたくさんありますので、安心してください。これまで配付してきたリーフレット「不安や悩みがあるときは：一人で悩まず、相談しよう」と「TOKYOほっとメッセージチャンネル」を紹介しますので、活用してください。下のQRコードからアクセスできます。



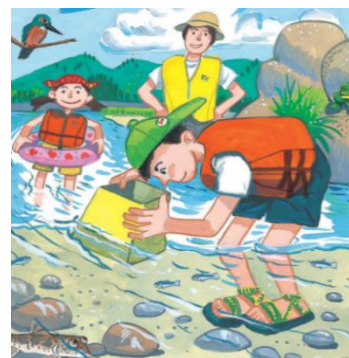
事故に遭わない・起こさない

水の事故に注意！

事故に遭わない・起こさないという気持ちを持ち続けよう！

◆ 次の事例を読んで考えましょう ◆

中学生のAさんは、毎年夏休みに川遊びをします。生き物が好きなAさんにとっては、魚や虫などたくさん生き物がある川はとても魅力的な場所です。絵のように、今年も川遊びを楽しんでいました。しばらくすると、水かさが増え、流れの速さは、あまり変わらないのですが水がだんだんと濁ってきました。同時に、足に感じる水の勢いが強くなりました。感じたように感じました。



① 水が濁ってきた理由を考えよう。

② 足に感じる水の勢いが強くなってきたのはなぜですか。

③ あなたがAさんだったら、この後、どのような行動を起こしますか。理由も合わせて答えましょう。

水に関わる子供の事故の約6割は川や湖で起こっています。ひとたび水辺の事故に遭遇すると、こうした楽しさはすべて奪われてしまいます。川や水辺、プールなど、水にひそむさまざまな危険性を知っておくことが大切です。子供だけで、川や水辺で活動することがないようにしましょう。

夏が近づき、プールや海などの水辺で活動することが多くなってきました。いろいろな体験をする絶好のチャンスですが、常に「事故に遭わない、事故を起こさない」この気持ちを持ち続けることが大切です。万が一、危険な場面に遭遇したり、少しでも危険であると感じたりしたときは、躊躇（ちゅうちゅう）せず、危険な場所から速やかに離れ、すぐに、大人に報告しましょう。

【考えましょう】の答えは次号に掲載します。